

学校評価のまとめと今度の努力項目

令和 7 年 5 月 14 日に行われた第 1 回学校運営協議会で、令和 6 年度の学校評価の結果を示した際に、「保護者の回答率が低いのではないか」「会議の時に結果をいただいても、建設的な意見を述べるのが難しい」とのご意見をいただいた。そこで、保護者アンケートについては、実施済みを確認する用紙の提出を促したことと、2 学期の三者懇談会の待ち時間に取り組めるように準備したことで、回答率が昨年度の 44.3%→94.3%に上昇した。また、令和 7 年度の結果については、第 3 回学校運営協議会の開催日より前に届け、内容を把握いたした上で、当日の会議に参加してもらえるように改善をした。

全体的な結果として、生徒、保護者、教職員の 3 者とも、各項目の「思う」・「そう思う」の割合が、昨年度より上昇している項目が多く見られた。具体的に、3 点に分けて分析したい。

(1) 確かな学力を身に付けける

生徒の学習に対する質問において「思う」・「少し思う」の割合の変化で分析する。「学習に意欲的に取り組んでいる」(64%→74% : C 判定→B 判定)、「授業が楽しい」(60%→69% : C 判定) の項目で、上昇が見られた。授業が楽しいと感じる生徒が増えたことが、生徒の学習意欲の上昇につながっているとも言える。また、それを支える教職員のアンケート結果においても、「生徒が学習に意欲的に取り組んでいる」(68%→76% : C 判定→B 判定) と上昇している。教職員も生徒たちの意欲的な姿勢を感じ取っている。さらに、来年度、研究発表会を控えていることもあり、主体的に学ぶ授業づくりに力を入れている。これも生徒たちの学習意欲の上昇につながった一因とも考えられる。

一方、若干であるが生徒の「授業が分かりやすい」(74%→71% : B 判定) の項目で、下降している。授業の振り返りの中で、「何が分かったか」「何ができるようになったか」が実感できる場をもつことも改善の一助になると考える。

保護者のアンケート結果でも、「分かりやすい授業が行われている」(58%→63% : D 判定→C 判定)、「楽しい授業が行われている」(54%→63% : D 判定→C 判定) に上昇しているが、「分からない」と応える保護者が、昨年度同様、それぞれ 20%程度見られる。引き続き、生徒の学びの様子を伝えとともに、積極的に授業の様子を公開していく努力をしていかなければならない。

(2) 豊かな心を育む

本校は、「富士中プライド」(あいさつ、奉仕の心、感謝の心)を大切にして指導している。この項目について、「思う」・「少し思う」の割合で分析する。生徒は(75%→75% : B 判定)、保護者は(74%→78% : B 判定)、教職員(64%→88% : C 判定→A 判定)と高い数値であった。これは、教職員が学校生活の場面の中で、「富士中プライド」を使ったり、「富士中プライド」の言葉が入った横断幕やのぼりを作成したりして、生徒の目に触れる

ようにしたことが一定の成果の一因であったと言える。

生徒の「いじめがなく安心して生活できている」の項目について見ると（86%→86%：B判定）と同じであったが、「思う」（64%→54%）と下降している点や「あまり思わない」「分からない」の割合が若干だが上昇している。生徒たちの感じる安心感が低下しているとも言える。しかし、保護者の「学校は、いじめのない学校作りに努めていると思う」の項目で（65%→69%：C判定）や教職員の「いじめに対して、すぐに対応している」の項目（97%→97%：A判定）の結果で高くなっている。保護者、教職員が連携し、生徒たちの安心・安全な学校生活に繋げていきたい。

学校行事、学校での活動の項目においても、生徒、保護者、教職員の数値は高い。これまでと同様、肯定的な評価が多いので、生徒たちの主体的な取組を大切にしていきたい。

（３）命の尊重と体力向上を図る

生徒の自己肯定感についての評価は、この学校評価アンケートの中で特に大切にしている点である。ここ３年間の推移で考察したい。生徒の「自分にはよいところがある」の回答が（54%→62%→67%）、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」の回答が（64%→67%→70%）と上昇傾向にある。また、保護者の「先生は、お子さんのよいところを認めてくれている」の回答では、（78%→80%→82%）と上昇している。教職員の「生徒のよさを認める支援をしている」の回答では、（86%→96%→97%）と回答をしており、教職員の地道な努力が、生徒・保護者により方向で伝わっていると分析する。一方、教職員の「生徒は、自分のよさを自覚していると思う」の項目では（43%→57%→59%）である。教職員が、生徒たちのどんな姿が見られれば、自分のよさを自覚していると感じられるのか、明確にしておくことも大切なかもしれない。

また、地域学校協働活動が本格的にスタートし２年目になる。生徒たちが、地域の一員としてボランティア活動等に関わることは、大きな価値があると考ええる。この活動を通して、生徒が教職員だけでなく、地域の方々と直接関わることで、感謝の言葉を伝えられる場がかなり増え、さまざま立場の人から認められるようになった。数値に大きく表れていないが、この地道な活動も、生徒たちの「認められたい、ほめられたい、必要とされたい」という自己肯定感、自己有用感に繋がっていると考察する。今後も、地域と共に生徒を育てるという視点に立って教育活動をしていきたい。

最後に交通安全に対する評価であるが、保護者の「学校では、登下校など交通ルールを守る指導がされている」の項目では（68%→74%、C判定→B判定）に上昇した。これも、教職員の時間をかけて行った登校指導や地域のみなさまの声かけの成果でもあるが、これ以外の活動も取り入れ、交通ルールの規範意識の向上に努めて行きたい。